

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく、学びプラン)」の進捗状況概要版
(令和元年度に進捗のあった主な事業)

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設 【(1)-①(P15)】	京都ミュージアムPBL科目	京都市と(公財)大学コンソーシアム京都の共同実施による、京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度より新規開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集める多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	令和2年度の開講に向けて、科目開設申請があった大学と文化施設とのマッチングを行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6所有者による7科目を開講する。 ・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学-4施設による4科目を開講する。 ・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。
	京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	「京都世界遺産PBL科目」を8科目を開講し単位互換生22名を含む87名が受講した。	
高校教員を対象とした障害のある学生の受入れに関する懇談会の開催 【(2)-②(P16)】	大学における障害学生支援に関する高校教員との懇談会	障害学生支援に関して高等学校や特別支援学校と大学がつながりをもつ機会が少ないという現状に鑑み、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的とした懇談会を開催。	令和元年12月5日に開催し、大学関係者16名、高校関係者12名が参加。教育委員会からも4名の見学があり、活発な意見交換が行われた。	早期の周知等に取り組むことで、参加者の拡大を図り、懇談会を充実させる。
大学と連携した学生の安心・安全の確保 【(2)-③(P16)】	世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動	市民、京都市、京都府警察等との連携により展開している「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」について、地域の特性、課題等に応じた行政区単位の犯罪防止等の取組をすべての行政区で展開するなど安心・安全なまちづくりのための取組を推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都産業大学、立命館大学における、自転車盗被害を抑止するための防犯カメラ設置に対して、補助を行った。 ・女性が被害に遭う可能性がある盗撮被害防止啓発 	引き続き、大学生を中心に被害が多発している自転車盗の被害防止啓発を行う。

柱2 大学・学生の国際化の促進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
戦略的な留学生誘致の展開 【(1)-①(P18)】	全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	東京での京都進学説明会(10校で計425名)、留学生の京都学び体験ツアー(文系・理系・芸術系コースで計38名)、首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び体験ツアー(11校で計11名)を実施した。	前年度の課題を踏まえながら、首都圏における新規対象校を開拓し、引き続き、京都進学説明会、教職員との交流機会の創出、留学生の京都訪問を実施する。
留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化 【(2)-②(P19)】	京都市外国籍市民総合相談窓口運営	京都で暮らす外国籍市民の方の相談事などに対して、適切な窓口への案内等を行うための相談業務を、京都市国際交流会館において実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・来所相談時の通訳タブレット活用による対応言語を拡充(7言語→11言語)し、対応を行った。 ・外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業の対応日を拡充した(英語対応日:週2日→週3日)。 	引き続き、同窓口において相談業務を実施する。
留学生と地域・日本人学生の交流促進 【(2)-④(P19)】	留学生と地域をつなぐ交流会	2017年度に実施した”留学生満足度調査”において課題となった”留学生と地域との交流促進”について、留学生と地域における様々なイベントを主催する地域団体等とつなげる交流会を実施し、留学生と地域のマッチング機会を創出。	留学生と京都をつなぐ交流会を6月(78名)、12月(67名)に実施し、地域のお祭りなどのボランティア活動等へのマッチングの機会を創出した。 ※6月の交流会で紹介した全6つのイベント中、5つのイベントで延べ16名の留学生がボランティア参加し、また、1つの参加型イベントでは28名の留学生が参加	引き続き、留学生と留学生との交流を希望する市民活動団体等との交流会を開催し、マッチングの機会を創出する。
海外の大学との交流促進 【(5)-①(P20)】	国際化の事例共有	教職員の国際化支援の一環として、大学における様々な国際化の取組に係る事例共有セミナーを実施。	「大学の国際化ってなんだろう？」をテーマに事例共有セミナーを実施し、様々な論点の意見交換を行った。今後のテーマ設定のベースとなるような様々な事例や視点の共有ができた。(14名参加)	セミナーで挙げた事例や視点を参考にテーマ設定を行い、各テーマを掘り下げていくセミナーの開催を検討する。

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援【(1)-①(P21)】	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	・台風の影響で縮小開催となったものの、令和元年10月13日に平安神宮前・岡崎プロムナード一帯において第17回京都学生祭典の本祭を開催した(来場者数:112,000名)。 ・経済団体や地域等が参画する京都学生祭典の企画検討委員会等に低年次生の学生の参加を促した。	引き続き、京都学生祭典の活動を支援する。
学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援【(1)-①(P21)】	京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。	第15回大会を開催し、来場者504名、84組の学生が発表した。また、奨励賞受賞者による研究成果の報告会を新たに設定し、自治体職員へのプレゼンテーションをすることで、研究成果の社会還元に向け取り組んだ。	引き続き、大会を開催するとともに、自治体職員へのプレゼンテーションや地域連携ウェブサイトや学まちコラボ事業との連携により、取組の継続と研究成果の社会還元が図れる仕組みづくりにも取り組む。
ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設【(1)-④(P22)】	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典」の応援に関する寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	京都市のふるさと納税制度に、新たに「京都学生祭典応援メニュー」を開設し、寄付を募るとともに、全国に向けて京都学生祭典をPRした。 (54件505万円(令和元年12月末現在))	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得する。
大学・地域連携ウェブサイトの開設【(2)-③(P22)】	大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。	平成31年4月に、大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」を開設し、大学・学生と地域連携の事例等について発信を行った。	引き続き、地域連携に係る様々な情報の配信を行う。
インターンシップ事業の充実【(3)-①(P23)】	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	・これまでの枠組みを継続して実施し、「ビジネス・パブリックコース」に225名(前年度238名)、「長期プロジェクトコース」に25名(前年度19名)の学生が参加した。 ・教育プログラムであることから低年次生(1・2回生)向けの広報を強化した。	引き続き、「ビジネス・パブリックコース」、「長期プロジェクトコース」を継続して実施するとともに、低年次生向けの広報をさらに強化する。
学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充【(4)-①(P24)】	学生向けアプリ(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(仮称))の開発・活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(令和元年度末開発予定)を活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	令和元年度末からのアプリの運用に向け、学生プロジェクトチーム等を立ち上げ、学生の意見を反映したアプリを開発する。	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、PRに引き続き取り組むとともに、情報配信やコンテンツの充実を図る。

柱4 学生の進路・社会進出の支援

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
地域企業の魅力発信の強化 【(1)-②(P25)】	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」において、京都の地域企業取材した記事を発信。	京都の地域企業等(8社)取材し、ウェブサイト「コトカレ」やSNSで発信した。	引き続き、京都の地域企業の情報を発信する。
地域企業と学生の出会いの場づくり 【(1)-③(P25)】	学生と市内中小企業との交流会の実施	学生と京都の中小企業との交流会である「しごとトークKYOTO」や、キャリア授業交流会の開催など、相互理解を深める取組を実施。	学生と京都の中小企業との交流会の開催(回数:10回, 参加者:615名, 参加企業:73社)	学生と京都の中小企業との交流会を開催し、学生と市内中小企業の相互理解が深まる取組を実施する。
働き方改革実践企業等の学生への周知 【(2)-①(P26)】	京の企業働き方改革総実践プロジェクト	経済団体等と連携し、市内中小企業が働き方改革を積極的に実践していくための仕組みづくりを進めるとともに、モデルとなる企業の創出及びその事例の周知・啓発を行うことで、中小企業における働き方改革の主体的な取組を後押し。	学生の意見も取り入れたうえで、京の企業「働き方改革」自己診断制度を創設し、働き方改革への取組状況等について、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用し発信した。	引き続き、ウェブサイト「京のまち企業訪問」において、働き方改革に取り組む地域企業の情報を発信する。

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実 【(1)-①(P27)】	リカレント教育の推進支援, 実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで, リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	教育事業企画検討委員会の下に「リカレント教育企画検討委員会」を設置し検討を開始した。	引き続き, 各大学が実施するリカレント教育の支援策及び大学コンソーシアム京都が実施するリカレント教育等について検討する。
新・文化庁との連携強化 【(3)-①(P28)】	新・文化庁との連携	文化庁地域文化創生本部と締結した連携協定に基づき, 新文化庁との連携を強化。	文化庁地域文化創生本部と大学コンソーシアム京都間で締結した連携協定に基づき, 文化庁地域文化創生本部を新たなインターンシップ事業の受入先とした。	引き続き, 連携強化策について検討する。
「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生 【(3)-⑤(P29)】	京都駅東部エリアの活性化	京都市立芸術大学等が移転される京都駅東部エリアにおいて, 芸術大学や, 下京渉成小学校区の5学区によるエリアマネジメントなど, 地域や関係するまちづくり団体等とも連携し, 文化芸術を基軸としたまちづくりを進め, 地域活性化の機運を高めるとともに, 「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都駅東南部エリアにおける文化芸術イベント「東九条野外劇場」との連携イベント開催(11月) ・「京都駅東部エリア 高瀬川沿いを歩く」開催(12月, 2月) ・京都駅東部エリア「高瀬川オープンカルチャーフォーラム2020」開催(1月) ・京都駅東部エリア「京都七条通めぐりスタンプラリー&アートフェスタ」開催(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア内の地域資源活用事業 本エリアでの地域や民間の自主活動の更なる活発化を図るため, 勉強会や意見交換を通じた緩やかなネットワークづくりを行う。 また, 芸術系大学の学生をはじめ, 若手芸術家やクリエイターなど, 京都の文化芸術・伝統産業の多様な担い手が, 地域行事などのまちづくり活動に参画し, 展示・発表の場として地域資源を活用するなど, 地域とのつながりを持つ中で, 活動し, 活躍できるように, ソフト面での支援を行う。 ・京都駅周辺エリアと連動した活性化事業 京都駅周辺エリア(京都駅東南部及び西部)とも連動した取組を実施することで, 人の流れをより広域的に生み出し, 京都駅東部エリアの活性化を推進する。

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
大学と地域の連携強化 【(4)-①(P29)】	大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	・14事業(文化枠2件、一般枠12件)を支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。 ・新たに採択団体向けにアンケートを実施し、地域団体とのつながりを希望する団体に対して、区役所等と協力し支援を行った。	・引き続き、地域連携事業について支援を行う。 ・各大学における広報の充実や、応募者説明会の開催回数を増やすことにより、応募団体の拡充に努める。
学生の力をいかした住民自治の活性化 【(4)-③(P29)】	大学生の力を活用した田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び京都市が連携協定を締結し、事業を推進。	学生が3名入居し、自治会役員として、地域の地蔵盆やお祭りの運営など自治会活動に携わっている。	学生の入居者数を、6名まで拡大し、さらなる地域コミュニティの活性化を図る。
教職員交流企画の実施 【(5)-①(P30)】	教職員交流企画の実施	「高大接続改革」の推進が求められている中、各校が抱える課題の解決や教育改善に資するため、学校や設置者の別を越えて、教育上の工夫や悩みなどを共有し、解決に向けて交流する場として「京都高校教員交流会」を実施。	京都高校教員交流会を計3回開催した。	引き続き、京都高校教員交流会を開催する。なお、実施にあたっては、高校現場や高校教員のニーズを踏まえるとともに、安定的な実施と参加者確保のために高校関係者と連携を密にし企画の検討を行う。

柱6 国内外への魅力発信の強化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組
修学旅行生とその保護者等を対象としたPR 【(1)-①(P31)】	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	京都B&Sプログラムや、よしもと祇園花月協力のもと、修学旅行生を対象にした公演(よるよる新喜劇)において、中高生に対して直接京都の学生生活の魅力を発信した。	引き続き、京都B&Sプログラムやよるよる新喜劇において、修学旅行生に対する京都の学生生活の魅力を発信する。
現役学生の保護者や卒業生、観光客等、幅広い層を対象とした情報発信 【(1)-③(P31)】	京都版スタディ・ツーリズム	京カレッジや各大学の公開講座等の情報を、東京における拠点を活用して幅広く発信することにより、京都で学ぶことを目的とした来訪を促進。	京カレッジの情報等について、大学コンソーシアム京都のウェブサイトで発信することに加え、京都館のれん分け事業者の店舗等、東京における拠点で発信を行った。	引き続き、東京における拠点を活用した情報発信を行う。

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく, 学びプラン)」の進捗状況

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 大学間連携による学びの充実	① 京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設	新規	京都ミュージアムPBL科目	京都市と(公財)大学コンソーシアム京都の共同実施による、京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度より新規開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集める多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	R2	令和2年度の開講に向けて、科目開設申請があった大学と文化施設とのマッチングを行った。	・「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6所有者による7科目を開講する。 ・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講する。 ・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。	大学コンソーシアム京都
			京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	H27	「京都世界遺産PBL科目」を8科目を開講し単位互換生22名を含む87名が受講した。	大学コンソーシアム京都	
	② 単位互換制度におけるグローバル科目の開設	新規	グローバル科目開設に向けた検討	大学の国際化に即したグローバル科目開設に向けた検討を実施。	R1	教育事業企画検討委員会において求められる現状や事業方針について確認のうえ共有した。	大学へ聞き取りや意見交換を行い、必要とされる科目開設について調査し検討する。既存科目において留学生の受講を促し、教育効果を検証する。	大学コンソーシアム京都
	③ 新たなe-ラーニングの仕組みの研究	新規	新たなe-ラーニングの仕組みづくりの検討	新たなe-ラーニング等、ICTの活用について検討を実施。	R1	教育事業企画検討委員会において求められる現状や事業方針について確認のうえ共有した。	大学へ聞き取りや意見交換を行い、真に必要なコンテンツ開発について調査し検討する。	大学コンソーシアム京都
	④ 大学間連携の取組を活用した、教員免許等資格取得に必要な科目の履修支援	新規	日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実	京都教育大学と連携し、キャンパスプラザ京都において、社会人を含めた学生が受講しやすい時間帯(日曜)における教員免許の資格取得に必要な単位互換科目を開設。	R2	事業の具体化を検討し、令和2年度に4科目、令和3年度に6科目を開講する事業計画が確定した。	教職課程の日曜講座として、4科目(教職論、教育心理学等)を開講する。	大学コンソーシアム京都
⑤ 京都市大学のまち交流センター(愛称:キャンパスプラザ京都)の利用促進	継続	大学のまち交流センター管理運営	大学における学術研究の成果、その他の知的資産を活用することにより、豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携・交流を促進する活動等に活用。	H12	定期的な点検及び随時の適切な対応により、快適な利用環境を維持し、利用者からの要望等に迅速かつ細やかに対応した。	管理委託業者との連携を十分図り、かつ施設設備の更新と改修を適切に行うことで、快適な利用環境を維持し、施設の稼働率向上に繋げる。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	① 障害のある学生が学びやすい環境づくり	充実	ノートテイク養成講座・パソコン(PC)テイク養成講座	テイク(支援者)とその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義、実践を通して、大学教職員・学生に情報保障に関するスタートアップの機会を提供。	H16	令和2年3月6日に京都精華大学において開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	引き続きノート・PCテイク講座を開催するが、開催時期については改めて検証し、参加者が多く見込める時期に実施する。	大学コンソーシアム京都
			関西障害学生支援担当者懇談会(KSSK)	関西にある大学の障害学生支援に携わる実務担当者の情報交換とネットワーク構築を目的に開催。	H20	令和元年9月12日に第23回KSSK(参加者数:63名)、令和2年2月28日の第24回KSSKはコロナウイルス感染状況を鑑み開催を中止とした。	参加者からのアンケート結果を参考にしつつ、時代のニーズに合ったテーマで引き続き実施する。また、障害学生支援をテーマに繋がることの少なかった行の担当者間における研修会の開催等について検討する。	大学コンソーシアム京都
			みやこユニバーサルデザインアドバイザーの派遣	ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、実践しようとする各種団体、学校、企業等に対し、必要な助言や支援を行うことにより、様々な分野や地域における主体的なユニバーサルデザインの取組を促進。	H18	派遣回数:2回 ・七条第三小学校 ・西京高等学校附属中学校	引き続き、各種団体、学校、企業等から申請があった際に、適任となる講師を派遣し、ユニバーサルデザインの取組を促進する。	京都市
			移動支援事業	単独で外出が困難な障害のある方への移動を支援(大学等への通学の支援を含む)。	S51	移動支援事業 実利用者数3,835人(大学等への通学の支援を行っている者を含む)(令和元年11月末時点)	引き続き、本事業を実施する。	京都市
	② 高校教員を対象とした障害のある学生の受入れに関する懇談会の開催	新規	大学における障害学生支援に関する高校教員との懇談会	障害学生支援に関して高等学校や特別支援学校と大学がつながりをもつ機会が少ないという現状に鑑み、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的とした懇談会を開催。	R1	令和元年12月5日に開催し、大学関係者16名、高校関係者12名が参加。教育委員会からも4名の見学があり、活発な意見交換が行われた。	早期の周知等に取り組むことで、参加者の拡大を図り、懇談会を充実させる。	大学コンソーシアム京都
	③ 大学と連携した学生の安心・安全の確保	充実	大学における消費生活講座の開講	大学生が契約トラブルなどの消費者問題についての現状認識を高め、その解決のために必要な法的知識を学ぶとともに、自らのライフスタイルについて考えを深めることを目的として、消費者問題に関する講座を寄付講座として開設。	H22	同志社大学において、秋学期毎週月曜日(令和元年9月30日～令和2年1月20日)に開講(全15講)	他大学においても実施できるように、調整を進めるとともに、同志社大学では、秋学期に加え、春学期においても同様に実施予定。	京都市
			世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動	市民、京都市、京都府警察等との連携により展開している「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」について、地域の特性、課題等に応じた行政区単位の犯罪防止等の取組をすべての行政区で展開するなど安心・安全なまちづくりのための取組を推進。	H26	・京都産業大学、立命館大学における、自転車盗被害を抑止するための防犯カメラ設置に対して、補助を行った。 ・女性が被害に遭う可能性がある盗撮被害の防止啓発	引き続き、大学生を中心に被害が多発している自転車盗の被害防止啓発を行う。	京都市

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
<p>(2) 「安心して学べる京都」の充実</p>	<p>④ 学生が安心・安全に学ぶための相談体制等の充実</p>	<p>充実</p>	<p>学生向けアプリ (「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(仮称))の開発・活用</p>	<p>京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(令和元年度末開発予定)を活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。</p>	R1	<p>令和元年度末からのアプリの運用に向け、学生プロジェクトチーム等を立ち上げ、学生の意見を反映したアプリを開発する。</p>	<p>より多くの学生にアプリを利用してもらうため、PRに引き続き取り組むとともに、情報配信やコンテンツの充実を図る。</p>	<p>京都市 大学コンソーシアム京都</p>
			<p>新入生ガイダンス及び大学内等における街頭啓発活動</p>	<p>大学生に対し、京都市内における居酒屋等の客引き行為や悪質スカウトによる犯罪被害等の現状を説明し、「客引きのアルバイトをしない」、「客引きを利用しない」、「スカウトについていけない」、「ブラックバイト相談窓口」等の啓発を実施。</p>	H27	<p>・新入生ガイダンス(京都府立大学、京都産業大学、京都工芸繊維大学)における啓発活動の実施(4月) ・大学周辺における啓発物品の配布(4月) ・大学周辺(京都大学、同志社大学)における啓発物品の配布(4月)</p>	<p>・新入生ガイダンスにおける啓発活動の実施(4月) ・大学周辺における啓発物品の配布(4月) ・重点対策大学へのポスター掲示依頼</p>	<p>京都市</p>
			<p>犯罪被害者支援に係る大学連携講義等の実施</p>	<p>犯罪被害者に関する大学講義を(公財)大学コンソーシアム京都の単位互換科目とするなど、啓発や人材育成を実施。</p>	H23	<p>京都産業大学で「被害者学」(前期)、「被害者施策」(後期)の講義を実施。</p>	<p>京都産業大学で「被害者学」(前期)、「被害者施策」(後期)の講義を実施予定。</p>	<p>京都市</p>
			<p>学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを活用した情報発信等</p>	<p>大学コンソーシアム京都加盟(市内)大学に消費者問題に関する注意喚起を促す情報誌「京・安心安全情報」を送付する。また、趣旨に賛同いただいている京都府内の大学学生課、京都市・京都府の消費生活センター、弁護士会の間において、学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを作成し、適時、消費者被害情報等の共有を実施。</p>	H30	<p>大学コンソーシアム京都加盟大学への若者向け消費者トラブル等に関する啓発チラシの送付。冊子「新生活のスタートを応援します。～押さえておきたい消費生活上のポイント例～」を配布するほか、情報誌「京・安心安全情報」を年6回送付。また、メーリングリストを活用した情報発信を実施。</p>	<p>引き続き、学生向けの消費者被害に関する情報発信・啓発を行う。</p>	<p>京都市</p>
			<p>京都市わかもの就職支援センターによる「よくわかる働き方と法律セミナー」の開催等</p>	<p>ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的とした「よくわかる働き方と法律セミナー」を開催。また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。</p>	H28	<p>・「よくわかる働き方と法律セミナー」の開催(回数:4回、参加者:356名) ・「ブラックバイト相談窓口」での対応(相談件数:13件)</p>	<p>よくわかる働き方と法律セミナーを市内大学等で開催するとともに、ブラックバイトの根絶に向けた相談、周知・啓発に取り組む。</p>	<p>京都市</p>
			<p>自転車のルール・マナー向上に関する取組</p>	<p>大学生の自転車事故を防止するために、大学生に対して自転車のルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。</p>	H30	<p>市内大学・短期大学において、自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」を配布。</p>	<p>引き続き、学生に対する啓発等を行う。</p>	<p>京都市</p>

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体			
(2)	「安心して安全に学べる京都」の充実	⑤	災害時における学生の安全の確保	継続	災害時における学生の安全の確保		大規模災害時の学生等を含む市民の安全を確保するため、京都市地域防災計画に基づき、地域における防災訓練の実施や、各大学・京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）における大規模災害に備えた安全対策や非常用物資の備蓄等を推進。	-	各学区において、避難所運営訓練等の防災訓練を実施。帰宅困難者対策に必要な物資の備蓄を行う。	引き続き、各学区における防災訓練を行う。	京都市
(3)	大学経営・運営の支援	①	FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)事業の充実	充実	大学教職員の能力開発と交流の充実		FD事業では、大学の取組等の情報発信や参加者間交流を目的とするFDフォーラム、階層別分野別研修プログラムとしてのテーマ別研修、FDに関するテーマを設定し工夫や悩みを共有する京都FD交流会を実施。SD事業では、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境の変化を踏まえたテーマで実施するSDフォーラム、次代の大学運営を担う世代が対象のSDゼミナール、若手から中堅職員対象の能力・スキル向上型研修としてSD共同研修プログラムを実施。これらの取組を通じて、大学教職員の能力開発と交流の場を提供。	H7	◆FD事業 ・第25回FDフォーラム(2/29・3/1) ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・テーマ別研修プログラム(全6回6テーマ) ・京都FD交流会(全3回3テーマ) ◆SD事業 ・第17回SDフォーラム(10/19) ・SDゼミナール ・SD共同研修プログラム(全9回7テーマ)	引き続き、FD及びSD事業を行う。実施にあたっては、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境と変化などの状況を踏まえつつ、参加者アンケートで寄せられた意見やニーズを分析しながら、より充実した企画を展開する。	大学コンソーシアム京都
		②	中小規模大学をはじめとする大学の特色化・機能強化の支援	新規	大学の特色化・機能強化の支援		中小規模大学をはじめとする多様な大学の個性をいかした特色化・機能強化を支援するため、各大学の現状やニーズ把握等を通じて、共同化が可能な取組・事業に関する研究や大学運営に関するノウハウを共有する仕組みづくりを推進。	R1	共同化が可能な取組等について検討を行い、具体策の一つとして、令和2年度の教職日曜講座の開設に向け準備を進めた。	・教職課程の日曜講座を開設する。 ・その他の共同化が可能な取組等について、各大学のニーズ把握を行いながら、検討を進める。	大学コンソーシアム京都
		③	大学コンソーシアム京都における情報収集・発信機能の強化	充実	高等教育の動向調査		国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。	-	京都地域の高等教育機関を取り巻く状況について、国(文部科学省)との協議・情報交換を行い、大学コンソーシアム京都内の委員会等で報告。	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査する。	大学コンソーシアム京都
		④	大学コンソーシアム京都加盟校への高等教育に関する情報提供の充実	充実	高等教育の動向調査、財団事業の影響分析		国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。また、高等教育環境が著しく変化中、指定調査課題等を活用し、財団事業の調査・研究を進め、国の動向等と併せて調査分析し、施策に反映。	-	指定調査課題等を活用し、財団事業の調査・研究を行った。研究成果は次年度に報告書として取りまとめ、大学へ提供する。	国等の動向に対応するため、指定調査課題を設定し、調査・研究を進める。	大学コンソーシアム京都

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(3) 大学経営・運営の支援	⑤ 大学への寄付の増進	継続	大学への寄付の増進	平成20年度税制改正に基づき、国立大学法人、公立大学法人、学校法人等に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定(※)する仕組みを導入することにより、京都の大学に対する寄付の増進を図り、民間からの大学支援を促進。 ※ 寄付金を受領する団体からの申請に基づき、所得税の寄付金控除の対象となる寄付金のうち、市民の福祉の増進に寄与する寄付金であると認められるものを指定。	H21	現在、21の学校法人に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定している。制度の周知に関しては、ホームページで行っている。	引き続き、制度の周知をホームページ内で行っていく。	京都市
(4) 大学施設整備の支援・誘導	① 大学施設整備の支援・誘導	充実	大学施設整備支援事業	大学からの施設整備等についての相談を受け、大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を実施。 また、都市計画マスタープランや持続可能な都市構築プランにおいて、大学の機能充実を明確に位置付け、施設整備の更なる支援を実施。	H7	各大学の相談に応じて大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行った。	引き続き、各大学の相談に応じて施設整備の支援・誘導を行う。	京都市
						京都橘大学地区地区計画の策定	施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行う。	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	R1	・東京での京都進学説明会(10校で計425名)、留学生の京都学び体験ツアー(文系・理系・芸術系コースで計38名)、首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアー(11校で計11名)を実施した。 ・初の試みであったが一定の京都進学ニーズを確認できた。この活動を通して関係づくりができた日本語学校から京都の大学の受験数も増加しており、事業効果が感じられる。	前年度の課題を踏まえながら、首都圏における新規対象校を開拓し、引き続き、京都進学説明会、教職員との交流機会の創出、留学生の京都訪問を実施する。	京都市大学コンソーシアム京都
			海外における京都留学フェア等の開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)」への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。	H27	・香港情勢の悪化により、香港・澳門での京都留学フェアは中止・延期となったが、JASSOフェア(韓国[ソウル]、ベトナム[ハノイ]、インドネシア[ジャカルタ])への参加、中国(西安)、タイ(バンコク)での京都留学説明会などのプロモーション活動を実施、現地情勢や京都留学意向の把握、京都の知名度アップ等を行った。併せて台湾、ベトナム(フエ・ダナン)の調査出張を行った。※香港・澳門はオンラインでのブース出展を実施。	これまでのプロモーション活動の実績・効果等を踏まえ、効果が見込まれる実地地域や実施手法を絞り込みながら、引き続き、海外における京都の知名度アップなどを通じた幅広い京都留学意欲の喚起を行う。	京都市大学コンソーシアム京都
			国内外留学フェアへの京都ブース出展	例年開催されている日本学生支援機構の「日本留学フェア」等に京都ブースを出展し、留学コーディネータが同ブースにおいて大学・日本語学校、留学生支援施策など、京都の留学情報を包括的に発信するとともに、現地の教育機関や留学関連事業者に働きを実施。	H27	9月 韓国 ソウル/参加者数約60名 10月 ベトナム ハノイ/参加者数約190名 11月 インドネシア ジャカルタ/参加者数約120名	・日本学生支援機構の「日本留学フェア」等に京都ブースを出展し、京都の留学情報を包括的に発信 ・京都留学意向の把握、現地関係者との信頼関係の醸成・維持	京都市大学コンソーシアム京都
			総合ポータルサイトの運営	大学・日本語学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都留学に関する総合ポータルサイトを設置・運営。	H27	・「STUDY KYOTO」アクセス件数(累計)566,627件 ・特集記事の掲載数(累計)81本 ・ニュースレター配信回数(累計)23回/登録者数3,217人 ※1月末時点	・総合ポータルサイトの情報整理及び構造変更を実施 ・留学生検討層に関心の高い奨学金ページ等の充実	京都市大学コンソーシアム京都
			留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。	H27	・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域、9名)	・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・パティ・翻訳等の取組を実施	京都市大学コンソーシアム京都

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施、体制の充実)	充実	市の友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ)や関係機関などとの連携による情報発信	京都で学ぶ留学生を誘致するため、本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)や(一財)自治体交流協会などと連携し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力発信。	H26	・姉妹都市の西安で「京都留学フェア」を開催し、学校説明会等を実施し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力発信 姉妹都市等を含む国・都市からの国公賓客入洛の際に、市長挨拶等で大学のまち京都をPRした。	本市友好交流都市(姉妹都市、パートナーシティ等)等と連携し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力発信 姉妹都市等を通じて、「大学のまち・学生のまち」の魅力発信する。	京都市
			京都留学ガイドの活用	平成28年度に作成した「京都留学ガイド」について、留学フェアや学校訪問等の際に配布するほか、ウェブサイトにもPDF版を掲載。	H28	中国語(繁体字、簡体字)それぞれ3,000部、タイ語1,000部のダイジェスト版を作成するとともに、WEB用の学部等マトリックス表を時点修正した。	必要に応じて、データの時点修正を行うとともに、冊子の増刷を行い、京都留学環境のPRツールとして活用する。	京都市 大学コンソーシアム京都
			海外教育旅行向け支援メニューの提供	海外から京都に教育旅行で訪れる教員・学生向けに、レクチャー・キャンパスツアー・学生交流機会の提供、文化体験プログラムの紹介などを行い、併せて京都留学に係るレクチャーを行うことにより、訪問者に対して留学先としての京都の魅力を紹介。	H29	香港・中国(厦門、西安、山東省)、インドアッサム州、英国、マレーシア等から、学生や教職員団を受け入れ(計約350名)、京都留学説明や留学生体験談、京都の大学教授による模擬講義等を行った。	引き続き、海外からの教育旅行等に合わせた京都留学説明等アレンジし、京都留学の魅力発信を行う。	京都市
			日本語学校における進学説明会の実施	京都の日本語学校で学ぶ留学生の地域内での進学を促進するため、日本語学校において大学や専門学校による学校説明や個別相談などを行う進学説明会を実施。また、大学、専門学校と日本語学校の連携を深めるため、そうした機会を利用して、大学、専門学校と日本語学校の担当者が情報を交換する機会を設定。	H30	京都の日本語学校における進学説明会(大学プレゼン、個別相談)を行った。(1か所、39名参加)	引き続き、京都の日本語学校で学ぶ留学生が、京都の大学や専門学校を知る機会の創出等に取り組む。	京都市 大学コンソーシアム京都
(2) 留学生の受入環境整備	① 留学生の受入に係る大学の負担軽減への支援	充実	留学生スタディ京都ネットワーク	大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学をオール京都で促進するための組織を運営。	H27	海外からの京都留学をオール京都で促進するため、留学生スタディ京都ネットワークを平成27年5月に設立し、留学生誘致・支援に係る各種事業を実施。新たに、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を対象とした誘致事業や留学生と地域をつなぐ交流会などを実施した。	2019年度で受託終了となる「留学生就職支援・コミュニティ Kyo Tomorrow Academ事業」をネットワークに再編・統合するとともに、2017年度以来となる「留学生満足度調査」を実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都
			受入環境整備事業(ウェルカム・パッケージ)	初めて来日する留学生の生活上の不安をできる限り取り除き、勉学に専心できる環境を整えるとともに、日本人学生等市民との交流を育む契機とするため、来日直後の留学生に必要な行政手続きや生活ルール等に係る情報提供やサポートを実施。	H28	ウェルカム・パッケージ(来日直後の留学生への情報提供等)を実施 ・ガイドダンス 延べ21校 1,561名 ・区役所手続きツアー 延べ5校 105名	春入学・秋入学の次期に合わせてウェルカム・パッケージを実施	京都市

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
② 留学生の受入環境整備	② 留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化	充実	外国人留学生の自転車ルール・マナーの向上に関する取組	日本の交通ルールに不慣れな外国人留学生に対し、事故を未然に防ぐため、日本の自転車ルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。	H30	自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」(英語版、中国語版)を外国人留学生に配布	令和元年度と同様に実施予定	京都市
			職員向け英語スキルアップ研修	大学コンソーシアム京都加盟大学の職員を対象に、英語力向上のための研修を実施。	H26	従前の英語研修に加えて、中国語文化理解研修を組み込んで実施した。(全6回、延べ87名参加) ・満足度は全体平均で95.2%。	受講者のアンケート結果等を踏まえつつ、英語だけでなく多文化研修の充実を図るなど、より魅力ある研修づくりに取り組む。	大学コンソーシアム京都
			京都市生活ガイドのホームページでの公開	初めて京都で生活する外国人が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した「京都市生活ガイド」(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開。 ※事業開始当時は紙媒体で配布していたが、平成28年度から紙媒体を廃止し、ホームページ上で公開に一本化。	H1	「京都市生活ガイド」を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開した。	引き続き「京都市生活ガイド」をホームページ上で公開する。	京都市
			外国人留学生国民健康保険料補助事業	留学生の健康を守るため、市内在住の私費留学生を対象に、国民健康保険料の一部を補助(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)。	H6	・申請があった市内在住の私費留学生を対象に、一人当たり月額700円を支給 ・申請件数3,186件 ・支給件数2,820件	申請があった市内在住の私費留学生を対象に、一人当たり月額700円を支給	京都市
			京都市外国籍市民総合相談窓口運営	京都で暮らす外国籍市民の方の相談事などに対して、適切な窓口への案内等を行うための相談業務を、京都市国際交流会館において実施。	R1	・来所相談時の通訳タブレット活用による対応言語を拡充(7言語→11言語)し、対応を行った。 ・外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業の対応日を拡充した(英語対応日:週2日→週3日)。	引き続き、同窓口において相談業務を実施する。	京都市
	③ 留学生の住まいの提供支援	充実	留学生のための住宅情報サイトの運営	留学生が多言語(日・英・簡・繁・ハングル)で賃貸住宅を検索できるサイトを民間企業の協力を得ながら運営。	H26	4月～12月は、セッション数(3,901件)、ページビュー数(24,948件)となりとも前年度と比べ微減となった。	より多くの留学生に利用いただけるよう、従前から行っている海外フェアやSNS等を活用したPRに加え、首都圏の日本語学校を対象とした留学生誘致事業においても積極的にPRするとともに、引き続き、サイト運営事業者とサイト利用増に向けた取組改善に係る協議を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
			京都地域留学生住宅保証制度	連帯保証人を見つけることができない京都地域の留学生が「連帯保証人不要」な形で住宅確保ができるよう、京都地域留学生住宅支援機構加盟大学が、制度に賛同していただける協力事業者(仲介業者・管理者・家主)と協力して留学生を支援。	H22	2018年末で新規入会停止を行っている。(既存会員は2019年度以降も会員資格継続) 34名利用中※12月末現在	現行会員について、引き続き実施する。	大学コンソーシアム京都

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
2 留学生の受入環境整備	④ 留学生と地域・日本人学生の交流促進	充実	外国人留学生交流等促進事業	留学生を含む市民団体などが主体となって行う留学生との交流活動に対して補助。	H22	留学生と市民の交流及び相互理解を促進する事業に対し、補助金の交付を行う。 (令和元年度採択件数) ・6団体9事業	引き続き、留学生と市民の交流及び相互理解を促進する事業に対し、補助金の交付を行う。	京都市
			留学生と地域をつなぐ交流会	2017年度に実施した”留学生満足度調査”において課題となった”留学生と地域との交流促進”について、留学生と地域における様々なイベントを主催する地域団体等とつなげる交流会を実施し、留学生と地域のマッチング機会を創出。	R1	留学生と京都をつなぐ交流会を6月(78名)、12月(67名)に実施し、地域のお祭りなどのボランティア活動等へのマッチングの機会を創出した。 ※6月の交流会で紹介した全6つのイベント中、5つのイベントで延べ16名の留学生がボランティア参加し、また、1つの参加型イベントでは28名の留学生が参加	引き続き、留学生と留学生との交流を希望する市民活動団体等との交流会を開催し、マッチングの機会を創出する。	大学コンソーシアム京都
	⑤ 留学生を対象とした日本語教育の支援	新規	日本語運用力向上講座	大学での日本語学習支援が十分でない、あるいは、交流を通じて日本語力を高めたい留学生を対象に、実戦での日本語運用力の向上を目指す講座を開設。	R2	-	日本語運用力向上につながる日本語学習会を行う講座を検討・実施する。 (講座例) ・ビジネスに活用できる日本語と企業人によるセミナー ・文化に関する日本語と文化体験	京都市 大学コンソーシアム京都
	⑥ 外国語による学習環境の整備・支援	継続	グローバル科目開設に向けた検討	外国語で履修できる各大学の科目について、単位互換制度による提供に向けた検討を実施。	R1	大学が自キャンパスで開講する英語で行う1科目を単位互換に提供いただいた。単位互換生は0名だった。想定されるニーズ、必要な環境整備等について事業部内で検討した。	大学へ聞き取りや意見交換を行い、必要とされる科目開設について調査し検討する。	大学コンソーシアム京都
	⑦ 災害時における留学生等の安全の確保	継続	国際交流会館における防災訓練	大規模災害の発生を想定し、外国籍市民等の防災意識を高め、災害時の通訳体制などの強化を図る訓練を実施。	H21	令和元年6月15日に訓練を実施。当日は、起震車体験や初期消火、救急救命訓練等を行った。	引き続き、国際交流会館において防災訓練を実施する。	京都市
			新規	災害時における外国籍市民等の防災体制整備事業	災害発生時、避難所等が設置された際に、本市の職員や避難所の運営主体等が日本語を話せない外国籍市民等に対応できるよう、専用の電話回線により通訳が可能な体制を整える。また、災害時の外国籍市民等に対する本市の防災体制や災害時における課題の抽出などのための意見聴取を実施予定。	R2	-	多言語による電話通訳体制の導入を進めるとともに、意見聴取会を実施する。

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(2) 留学生の受入環境整備	⑦ 災害時における留学生等の安全の確保	継続	京都市防災危機管理情報館	大規模災害時の留学生の安全確保を図るため、京都市総合防災訓練や京都市国際交流会館における防災訓練への留学生を含む外国籍市民の参加を促進するとともに、災害時における京都市国際交流会館を拠点とした翻訳・通訳支援、多言語に対応した防火防災パンフレットの市内各所での配布や防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」での防災関連情報の発信等を実施。	-	多言語に対応した防火防災パンフレットの市内各所での配布や防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」での防災関連情報の発信等を実施。	防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」の多言語対応ページをさらに充実させる。	京都市
		継続	京都市防災危機管理情報館	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信。	-	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信	京都市
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	① 留学生の就職支援・マッチング事業の強化	充実	留学生の就職支援・マッチング事業	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。	H29	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数 留学生606名、企業191社(3月16日時点) ・セミナー・交流会開催数 留学生向け3回、企業向け3回、交流会3回 合計参加者数220名(留学生140名、企業80名)(3月16日時点)	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の運営 ・地元企業への就職の機運を醸成するセミナーや交流会を開催	京都市
		充実	留学生の就職支援・マッチング事業	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。 【(再掲)2-(3)-1】	H29	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数 留学生606名、企業191社(3月16日時点) ・セミナー・交流会開催数 留学生向け3回、企業向け3回、交流会3回 合計参加者数220名(留学生140名、企業80名)(3月16日時点)	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の運営 ・地元企業への就職の機運を醸成するセミナーや交流会を開催	京都市
		留学生向け有給インターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進(実施主体:留学生スタディ京都ネットワーク)。	H28	留学生91名がエントリーし、マッチングの結果、27名(17社)がインターンシップを修了した。	経済団体等と連携した受入企業の開拓・拡充に努めるとともに、マッチング率が高まるような工夫・取組を検討・実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	② 留学生の採用に積極的な地域企業の支援	充実	留学生就職支援・交流コミュニティ KyoTomorrow Academy事業	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業」の採択を受け、企業見学、ビジネス日本語研修、就職セミナー、交流会等を通じて、留学生が学生同士や企業、地域等と交流を図りながら、地元企業への就職意識を高め、京都での定着を促進。	H27	「KyoTomorrow Academy」登録者の2019年度目標250名を9月中旬に達成(12月末264名)したほか、企業訪問、交流イベント、就職活動セミナー、合同就職説明会の開催や就職活動・日本語学習・交流支援などを実施した。	文部科学省採択事業としての受託は2019年度が最終年度となるが、コミュニティをベースとしたコア事業は、留学生の誘致から卒業、就職・定着までの流れの一環として、留学生スタディ京都ネットワーク事業に再編し、留学生の受入れ環境充実に引き続き取り組む。 京都地域の留学生の交流・日本語学習・就職の支援として、他の団体との連携による就職支援、交流会、日本語学習支援(スタディグループ他)、企業見学等を実施する。	大学コンソーシアム京都
			外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア	日本での就職を目指す留学生に対し、就職活動に関する情報の提供や採用担当者と直接面談ができる説明会を実施(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)。	H19	3月に開催予定であった留学生向けの就職ガイダンス&ジョブフェアを中止	留学生向けの就職ガイダンス&ジョブフェアを開催	京都市
	③ 留学生と企業がつながる機会の充実	留学生向け有給インターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進(実施主体:留学生スタディ京都ネットワーク)。 【(再掲)2-(3)-2】	H28	留学生91名がエントリーし、マッチングの結果、27名(17社)がインターンシップを修了した。	経済団体等と連携した受入企業の開拓・拡充に努めるとともに、マッチング率が高まるような工夫・取組を検討・実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都	
(4) 日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	① 日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	充実	「英語で京都をプレゼンテーション」	大学コンソーシアム京都加盟大学の学生のうち、海外留学を検討中又は留学を予定している学生や英語で日本や京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、英語で京都や日本の魅力を発表できるよう研修事業を実施し、英語によるプレゼンテーション能力の向上、日本文化や京都の奥深い魅力を知り、理解する機会を提供。	H28	26名が受講し、昨年度に引き続き、修了者(全26名)が京都市から「京都PR学生大使」に任命された。 また、昨年度の「京都PR学生大使」が留学生スタディ京都ネットワークの首都圏の留学生対象「京都の学び体験ツアー」でパディを務めるなど、研修受講後の活躍機会を創出した。 ・満足度は94.4%。	受講者のアンケート結果等を踏まえて研修内容の充実を図るとともに、研修受講後の活躍機会を創出する	大学コンソーシアム京都
			「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	H28	・各大学において、留学生誘致、日本人学生の海外留学促進、留学生支援体制の構築等に係る事業を実施した。 ・認定:10大学	新たに積極的に国際化に取り組む大学を中心に採択し(令和2年度から最大4箇年の支援を想定)、大学や関係機関等と連携の上、効果的に大学・学生の国際化を推進する。	京都市

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体		
(4)	日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	①	日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	充実	「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生を「京都PR学生大使」に任命 ・任命者数 26名 ・国内外において京都の魅力を発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生を「京都PR学生大使」に任命 ・国内外において京都の魅力を発信 	京都市
(5)	海外の大学との交流促進	①	海外の大学との交流促進	継続	海外における京都留学フェア開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)」への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。【(再掲)2-(1)】	H27	<ul style="list-style-type: none"> ・香港情勢の悪化により、香港・澳門での京都留学フェアは中止・延期となったが、JASSOフェア(韓国[ソウル]、ベトナム[ハノイ]、インドネシア[ジャカルタ])への参加、中国(西安)、タイ(バンコク)での京都留学説明会などのプロモーション活動を実施、現地情勢や京都留学意向の把握、京都の知名度アップ等を行った。併せて台湾、ベトナム(フエ・ダナン)の調査出張を行った。※香港・澳門はオンラインでのブース出展を実施。 	これまでのプロモーション活動の実績・効果等を踏まえ、効果が見込まれる実地地域や実施手法を絞り込みながら、引き続き、海外における京都の知名度アップなどを通じた幅広い京都留学意欲の喚起を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
					語学留学プログラム	留学プログラムが少ない大学で学ぶ学生においても、様々なレベルでの留学機会を確保できるよう、大学コンソーシアム京都とビクトリア大学連携組織との協定に基づくオーストラリアメルボルンでの留学派遣プログラムを実施。(単位互換制度を活用) また、留学機会の更なる創出のため、安近短(安全、近場、短期)な語学留学プログラムを開発。	H22	初めて参加のあった大学を含め、これまでで最も多い34名(予定)を派遣することとしており、留学プログラムが少ない大学にとってニーズがあることがあらためて確認できた。 安近短な語学留学プログラムについては、関係者からのヒアリングでマレーシアの短期留学受入環境の有益な情報を得た。	引き続きメルボルン(ホスト校:龍谷大学)への単位互換制度を利用した海外派遣プログラムを実施する。こうした留学機会を求め大学に学生に募集情報が届くよう、周知等を丁寧に行う。 安近短な語学留学プログラムについては、マレーシアを念頭に、留学初心者も参加しやすい具体的なツアー内容を企画・検討する。	京都市 大学コンソーシアム京都
					国際化の事例共有	教職員の国際化支援の一環として、大学における様々な国際化の取組に係る事例共有セミナーを実施。	R1	「大学の国際化ってなんだろ？」をテーマに事例共有セミナーを実施し、様々な論点の意見交換を行った。今後のテーマ設定のベースとなるような様々な事例や視点の共有ができた。(14名参加)	セミナーで挙げた事例や視点を参考にテーマ設定を行い、各テーマを掘り下げていくセミナーの開催を検討する。	大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 学生の主体的活動の促進	① 京都学生祭典, 京都国際学生映画祭, 京都学生広報部, 京都から発信する政策研究交流大会等, 学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援 (京都学生祭典) (京都国際学生映画祭) (京都学生広報部) (京都から発信する政策研究交流大会)	充実	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	H15	・台風の影響で縮小開催となったものの、令和元年10月13日に平安神宮前・岡崎プロムナード一帯において第17回京都学生祭典の本祭を開催した(来場者数:112,000名)。 ・経済団体や地域等が参画する京都学生祭典の企画検討委員会等に低年次生の学生の参加を促した。	引き続き、京都学生祭典の活動を支援する。	大学コンソーシアム京都
			京都国際学生映画祭	上映機会の少ない学生が制作した自主映画を世界各地より集め、上映する機会を学生が創り出すことを通して、未来の映画人を担う人材・才能の発掘を目指すとともに、学生実行委員の成長を促進。	H9	・令和2年2月21日～23日に、第22回京都国際学生映画祭の本祭を京都文化博物館において開催した。 ・新たな研修プログラムとして企画検討委員による各専門分野に関する研修会を立ち上げた。	・引き続き、京都国際学生映画祭の活動を支援する。 ・引き続き、実行委員の学びとなる研修プログラム行う。	大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	・SNS(Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画や修学旅行生を対象にした公演(よるよる新喜劇)でのPRの実施、青少年活動センターと協働することで、京都の学生生活の魅力を発信を充実させる。	・主に中小規模大学と連携し、学生目線で大学の魅力を発信するとともに、京都学生広報部・各大学双方におけるPRを充実する。 ・引き続き、多様な主体と協働することで、京都の学生生活の魅力を発信を充実させる。	京都市 大学コンソーシアム京都
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。	H17	第15回大会を開催し、来場者504名、84組の学生が発表した。また、奨励賞受賞者による研究成果の報告会を新たに設定し、自治体職員へのプレゼンテーションをすることで、研究成果の社会還元に向け取り組んだ。	引き続き、大会を開催するとともに、自治体職員へのプレゼンテーションや地域連携ウェブサイトや学まちコラボ事業との連携により、取組の継続と研究成果の社会還元が図れる仕組みづくりにも取り組む。	大学コンソーシアム京都
	② 学生Place+(ぶらす)の更なる活用促進	充実	学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施	H21	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。(学生Place+来場者数(令和元年12月末現在):21,328名)	・引き続き、学生が大学の枠を超えて京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。 ・交流スペースの利用について学生であれば誰でも使用可能とするなど、より多くの学生の利用を促すため、利用要件を緩和する。	京都市

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 学生の主体的活動の促進	③ むすぶネットの活性化	充実	むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げるにより、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。	H21	・ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを実施する(マッチング件数(令和元年12月末現在):26件)。 ・マッチング事例に関する実際の活動風景やインタビュー動画等をウェブサイトで配信することで、活動の見える化を図った。	引き続き、ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを促進する。	京都市
	④ ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	新規	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典」の応援に関する寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	R1	京都市のふるさと納税制度に、新たに「京都学生祭典応援メニュー」を開設し、寄付を募るとともに、全国に向けて京都学生祭典をPRした。(54件505万円(令和元年12月末現在))	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得する。	京都市
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	① 学生と地域の連携強化	充実	大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	H16	・14事業(文化枠2件、一般枠12件)を支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。 ・新たに採択団体向けにアンケートを実施し、地域団体とのつながりを希望する団体に対して、区役所等と協力し支援を行った。	引き続き、地域連携事業について支援を行う。 ・各大学における広報の充実や、応募者説明会の開催回数を増やすことにより、応募団体の拡充に努める。	京都市 大学コンソーシアム京都
			区民提案・共汗型まちづくり支援事業	柔軟で活力に満ちた若い力を地域の課題解決や地域活性化にいかすとともに、地域社会との関わりの中で得られる学びの機会を創出すること等を目的として、「区民提案型支援事業」に学生等への支援枠を設け、「共汗型事業」では学生をはじめとした若者と連携した事業を展開。	H24	区民提案型支援事業により、学生と地域が連携した取組に対して支援を行った。	「区民提案型支援事業」において、引き続き、学生と地域の連携強化の取組を推進する。	京都市
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。【(再掲)3-(1)】	H17	15回目の大会を開催し、来場者504名、84組の学生が発表した。また、奨励賞受賞者による研究成果の報告会を新たに設定し、自治体職員へのプレゼンテーションをすることで、研究成果の社会還元に向け取り組んだ。	引き続き、大会を開催するとともに、自治体職員へのプレゼンテーションや地域連携ウェブサイトや学まちコラボ事業との連携により、取組の継続と研究成果の社会還元が図れる仕組みづくりにも取り組む。	大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	② 地域活動への学生の参画促進	継続	消防団入団促進事業	<p>若者の消防団への入団促進を図ることで、消防団の活性化、充実強化を図るため、以下取組を実施。</p> <p>1 消防団員の入団資格の拡充 「京都市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例」を改正し、市外に居住する学生も市内に通学していれば入団できるよう入団資格を拡充。</p> <p>2 消防団防災ハイスクールの実施 消防団員が地元の高等学校に出向き、放水活動やAEDの取扱いなど消防団活動の体験を中心とした防災教育を行う「消防団ハイスクール」を開始。</p> <p>3 学生認証制度の創設 大学等に通学しながら消防団活動に取り組み、地域社会へ貢献した大学生等の功績を認証する学生消防団活動認証制度を開始。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 消防団全体の活性化を図るため若手消防団員を中心として結成された消防団充実強化実行チームのメンバーが大学やターミナル駅等に出向いて入団勧奨活動を実施。</p>	H27	<p>学生をはじめとする、若者の消防団への加入が進み、昨年は、54年ぶりに消防団員数が4,600名を超え、令和2年1月現在で、4,639名となった。(定員4,970名)</p> <p>1 平成27年度の改正以降、70名だった学生団員が令和2年1月現在で272名と増加した。引き続き、広報媒体を活用して、入団促進を図る。</p> <p>2 令和元年度中、市内30高等学校の学生8,924名に対し、消防団員による防災指導等を実施し、消防団員のPRを行い、若者の入団促進に努める。</p> <p>3 令和元年度中、消防団活動認証制度の利用学生団員は21名で、平成27年度から延べ87名を認証した。</p> <p>4 地域のふれあい祭りや学生主催のイベント(京都学生祭典、京防災フェスタ)等において、入団促進活動を実施。 今後も引き続き、事業概要を継続し、学生などの若者の消防団への加入促進を図り、消防団の活性化や充実強化につなげる。</p>	<p>以下の取組を実施し、若者の消防団への加入促進を図っていく。</p> <p>1 学生の入団資格拡充 市内大学等に通学する学生に対し、広報媒体等を活用して、入団促進を図る。</p> <p>2 消防団防災ハイスクールの実施 実施校は、継続して実施し、未実施校は、実施できるよう折衝する。</p> <p>3 学生認証制度 大学及び学生に制度を周知し、学生の入団促進を図る。また、現役学生団員には制度利用の促進を図る。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 消防団充実強化実行チームのメンバーが地域団体や大学等が実施する若者が集まるイベントに出向き、入団勧奨活動を実施する。</p>	京都市
			自治会等への加入促進(きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰)	<p>自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進することを目的に、自治会・町内会等の地域団体が主体となって取り組む地域活動に関して、これと連携・協力し、地域力の向上に貢献している事業者、NPO法人、大学、マンション等を顕彰し、自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進。</p>	H25	<p>・「きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰」の表彰対象者を募集し、表彰式を実施した。</p>	<p>「きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰」は隔年での実施を予定しているため、令和2年度の実施は未定。</p>	京都市
			自治会等への加入促進(大学・専修学校新入生向けチラシの配布)	<p>大学・専修学校への入学生に対し、自治会・町内会への加入促進、地域活動への参加をはじめ、選挙権年齢引下げに伴う住民票の異動等と呼び掛けるチラシを配布。</p>	H28	<p>平成31年4月に、市内大学・専修学校新入生に向けた啓発チラシを、各校を通じて配布した。</p>	<p>令和2年4月頃に、市内大学・専修学校新入生に向けた啓発チラシを配布する。</p>	京都市

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(2)	② 地域活動への学生の参画促進	継続	むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げるにより、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。 【(再掲)3-(1)】	H21	・ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを実施する(マッチング件数(令和元年12月末現在):26件)。 ・マッチング事例に関する実際の活動風景やインタビュー動画等をウェブサイトで配信することで、活動の見える化を図った。	引き続き、ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを促進する。	京都市
			学生ボランティアチャレンジ(輝く学生応援プロジェクト)	社会貢献活動等に関心のある学生とボランティア活動とをマッチングすることにより、学生が社会的な課題や社会貢献活動に触れる機会を創出。	H26	学生とボランティア活動とのマッチングを行い、地域活動への学生の参画促進を実施する(参加者数:79名)。	引き続き、学生とボランティア活動とのマッチングを行い、地域活動への学生の参画を促進する。	京都市
			学生防犯ボランティアへの支援	「互いに助け合う、犯罪や事故が少ないまち」を目指し、大学生への支援と連携を進めるため、学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」への支援などを実施。 ※学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生ボランティア登録制度	H23	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」による、防犯パトロールなどの学生防犯活動に対して補助金を交付しており、これを活用した防犯教室等各種の活動を実施中。	引き続き、学生が主体となった防犯活動への支援を行う。	京都市
(3)	③ 大学・地域連携ウェブサイトの開設	新規	大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。	R1	平成31年4月に、大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」を開設し、大学・学生と地域連携の事例等について発信を行った。	引き続き、地域連携に係る様々な情報の配信を行う。	大学コンソーシアム京都
			① インターンシップ事業の充実	充実	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	H10	・これまでの枠組みを継続して実施し、「ビジネス・パブリックコース」に225名(前年度238名)、「長期プロジェクトコース」に25名(前年度19名)の学生が参加した。 ・教育プログラムであることから低年次生(1・2回生)向けの広報を強化した。
	② 多様な生き方・学びを考える機会の創出	充実	学生と市内中小企業との交流会の実施	学生と京都の中小企業との交流会である「しごとトークKYOTO」や、キャリア授業交流会の開催など、相互理解を深める取組を実施。	H28	学生と京都の中小企業との交流会を開催(回数:10回、参加者:615名、参加企業:73社)した。	引き続き、学生と京都の中小企業との交流会を開催し、学生と市内中小企業の相互理解が深まる取組を実施する。	京都市

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体	
(3)	大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実	②	多様な生き方・学びを考える機会の創出	充実	京都市わかもの就職支援センターによるインターンシップの実施	H28	取材型インターンシップを実施(回数:1回,参加者:13名,取材企業:13社)した。	引き続き,取材型インターンシップを実施することで,市内中小企業の魅力を発信し,京都の中小企業に対する学生の理解を深めるとともに,職業観の醸成を図る。	京都市
					西陣を中心とした地域の活性化	R1	「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進	・「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進 ・学生が伝統工芸に出会う機会の創出等について,実施主体や方法等を検討	京都市
					児童館等における大学生職業体験事業	R1	協定を締結した市内2大学から,合計3名の学生が,それぞれ約10日の職業体験に参加。	引き続き,協定を締結した市内2大学を中心に,参加学生を募集する。	京都市
(4)	学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	①	学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充	充実	高大社連携キャリア教育企画	H30	・高大社連携フューチャーセッションを開催した。 京都市内会場(9/22)【参加者数:高校生15名,大学生11名】 京都府北部会場(9/29)【参加者数:高校生23名,大学生31名】 振り返り会(12/7)【参加者数:高校生4名,大学生12名】	引き続き,高大社連携フューチャーセッションを開催する。なお,実施にあたっては,より多様な高校や大学からの参加者増のために,各校の行事等の情報収集を踏めて,広報期間や実施時期等に配慮する。	大学コンソーシアム京都
					キャンパス文化パートナーズ制度	H22	・学生向けの文化施設等の優待(32施設,1事業)を実施した。 ・制度を利用する学生に対して,文化情報をメール配信(34件(12月末時点))した。	学生向けアプリとの連携により,制度利用者の増加や利便性向上等を図るとともに,優待文化施設数の増加に取り組む。	京都市
						R1	令和元年度末からのアプリの運用に向け,学生プロジェクトチーム等を立ち上げ,学生の意見を反映したアプリを開発する。	より多くの学生にアプリを利用してもらうため,PRに引き続き取り組むとともに,情報配信やコンテンツの充実を図る。	京都市大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	① 学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充	充実	京都・和の文化体験の日	日本文化の真髄である京都の文化芸術を次の世代にしっかりと伝えていくため、学生をはじめとする若者が「和の文化」に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供。	H25	情報冊子「日本舞踊入門の入門」を発行するとともに、文化体験イベント「はじめまして日本舞踊」を開催した。	引き続き、情報冊子を発行する。	京都市
			単位互換科目の充実	京都世界遺産PBLに引き続き、京都ミュージアムPBLを開設。 【(再掲)1-11】	H6	<ul style="list-style-type: none"> 「京都世界遺産PBL科目」を8科目を開講し単位互換生22名を含む87名が受講した。 京都ミュージアムPBLの令和2年度開講に向けて、科目開設申請があった大学と文化施設とのマッチングを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6所有者による7科目を開講する。 「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講する。 受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。 	大学コンソーシアム京都
			京都国際舞台芸術祭	「京都文化の〈現在〉を世界に発信する、新たな観光資源としての国際フェスティバルを目指す」ことを基本理念とし、次世代の人材育成や本市の重要事業との連携など、京都の未来を見据えて展開し、国内外の先駆的な舞台芸術を紹介する世界的な芸術祭を開催。	H22	令和元年10月5日～10月27日に第10回を開催。日本を含む世界の6つの国や地域からアーティストを招き、11の公式プログラムを展開した。	新たに「日本博」とも連携し、「若年層の観光客へ向けた新たなインバウンド構想」として、観光や留学で来日する若年層外国人に、伝統文化のみならず、京都の現代的な文化やアートシーンに触れていただくための観客誘導の導線、大学との連携プロジェクトを行う。	京都市
	② 留学生が京都の文化芸術に親しむ機会の創出	継続	受入環境整備事業(留学生優待プログラム)	市内文化施設等への入場優待やイベントへの無料招待を実施。	H21	市内文化施設等への入場優待が受けれる「留学生おこしやすPASS」の配布やイベントへの無料招待等を実施した。 (おこしやすPASS利用者数:留学生2,865名,日本人学生93名, イベント無料招待:参加者数718(いずれも12月末時点))	市内文化施設等への入場優待が受けれる「留学生おこしやすPASS」の配布やイベントへの無料招待等を実施	京都市
	③ 若手アーティスト・クリエイターの育成	充実	京都市芸術文化特別奨励制度	芸術文化の若い担い手等を育成することにより、新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化を振興することを目的として、候補者を公募、審査のうえ、1個人又は1グループに対して300万円の奨励金を交付。	H12	審査のうえ認定者決定し、若手芸術家の飛躍に向けた活動を支援した。	引き続き、候補者を公募し、若手芸術家を支援する。	京都市
			京都学生アートオークション	京都の芸術系大学で学ぶ学生のキャリア支援を目的としたオークションを開催(京都学生アートオークション実行委員会主催)。	H29	令和元年11月に第4回京都学生アートオークションを開催した。	引き続き、京都学生アートオークションを開催する。	京都市

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	③ 若手アーティスト・クリエイターの育成	充実	京都文学賞	京都を題材とする文学作品を募集、表彰することにより、京都における文学の更なる振興とともに、「文化都市・京都」の発信や、京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上を促進。	R1	「京都文学賞」を新たに創設し、小説を募集。令和2年3月30日に受賞作を発表し、表彰式を実施予定。	引き続き、文学の更なる振興、新人作家の発掘・育成を図るとともに、読書好きの若者をはぐくむため、本事業を実施する。	京都市

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	① 地域企業と連携した担い手育成	継続	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。 【(再掲)3-(3)】	H10	これまでの枠組みを継続して実施し、「長期プロジェクトコース」に25名(前年度19名)、「ビジネス・パブリックコース」に225名(前年度238名)の学生が参加した。教育プログラムであることから低年次生(1・2回生)向けの広報を強化し、参加者の28%(前年度20%)が1・2回生となった。主に京都市内の200超の企業・団体・自治体に協力いただき、113の企業・団体・自治体に受入っていた。	・引き続き、「ビジネス・パブリックコース」、「長期プロジェクトコース」を継続して実施するとともに、低年次生向けの広報をさらに強化する。 ・既存の受入先との連携を強め、実習内容の魅力を引き出すよう努める。	大学コンソーシアム京都
			京都企業と連携した次代の京都を担う人財の育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施。	H26	留学生を含む学生のチームが、京都企業と連携したPBLにより、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などに取り組んだ。 (プロジェクト数:11, 参加者:16 大学・74名(うち留学生16名))	引き続き、留学生を含む学生のチームと京都企業が連携したPBLを実施する。	京都市
	② 地域企業の魅力発信の強化	充実	WEBサイト「京のまち企業訪問」運営事業	京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。	H21	ウェブサイト「京のまち企業訪問」において、企業の特集記事(8社)を掲載した。	引き続き、ウェブサイト「京のまち企業訪問」により、地域企業の魅力をはじめ、働き方改革の取組状況などについて情報発信を行う。	京都市
			インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。 【(再掲)3-(3)】	H10	これまでの枠組みを継続して実施し、「長期プロジェクトコース」に25名(前年度19名)、「ビジネス・パブリックコース」に225名(前年度238名)の学生が参加した。教育プログラムであることから低年次生(1・2回生)向けの広報を強化し、参加者の28%(前年度20%)が1・2回生となった。主に京都市内の200超の企業・団体・自治体に協力いただき、113の企業・団体・自治体に受入っていた。	・引き続き、「ビジネス・パブリックコース」、「長期プロジェクトコース」を継続して実施するとともに、低年次生向けの広報をさらに強化する。 ・既存の受入先との連携を強め、実習内容の魅力を引き出すよう努める。	大学コンソーシアム京都

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	② 地域企業の魅力発信の強化	充実	京都市わかもの就職支援センターによるインターンシップの実施	「京都中小企業担い手確保・定着支援事業」の取組として、京都市わかもの就職支援センターが、低年次の学生も対象とし、インターンシップ生を受け入れ、京都の中小企業を取材し、ウェブサイトで発信することで、京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。 【(再掲)3-(3)】	H28	取材型インターンシップを実施(回数:1回,参加者:13名,取材企業:13社)した。	引き続き、取材型インターンシップを実施することで、市内中小企業の魅力を発信し、京都の中小企業に対する学生の理解を深めるとともに、職業観の醸成を図る。	京都市
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」において、京都の地域企業を取材した記事を発信。	H27	京都の地域企業等(8社)を取材し、ウェブサイト「コトカレ」やSNSで発信した。	引き続き、京都の地域企業の情報を発信する。	
	③ 地域企業と学生の出会いの場づくり	充実	「京都市わかもの就職支援センター」を拠点とした大学出張セミナー等の実施	「京都中小企業担い手確保・定着支援事業」の取組として、「京都市わかもの就職支援センター」を拠点に、学生と京都の中小企業との交流会など大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。	H28	・個別カウンセリングの実施(人数:延べ1,388名) ・大学への出張セミナーの実施(回数:66回,参加者:1,632名)	引き続き、京都の中小企業への就職希望者に向けた個別カウンセリングの充実や、出張セミナー実施大学の拡充に取り組む。	京都市
			京都市わかもの就職支援センターによるインターンシップの実施	「京都中小企業担い手確保・定着支援事業」の取組として、京都市わかもの就職支援センターが、低年次の学生も対象とし、インターンシップ生を受け入れ、京都の中小企業を取材し、ウェブサイトで発信することで、京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。 【(再掲)3-(3)】	H28	取材型インターンシップの実施(回数:1回,参加者:13名,取材企業:13社)	取材型インターンシップの実施により、市内中小企業の魅力を発信し、学生に対し、京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を図る。	京都市
			学生と市内中小企業との交流会の実施	学生と京都の中小企業との交流会である「しごとトークKYOTO」や、キャリア授業交流会の開催など、相互理解を深める取組を実施。 【(再掲)3-(3)】	H28	学生と京都の中小企業との交流会の開催(回数:10回,参加者:615名,参加企業:73社)	学生と京都の中小企業との交流会を開催し、学生と市内中小企業の相互理解が深まる取組を実施する。	京都市
			京のまち企業訪問ツアーの実施	学生をはじめとする求職者等が、京都の中小企業を訪問し、そこで働く人と、仕事や働くことについて直接話し、企業の雰囲気を感じられる「京のまち企業訪問ツアー」を実施。	H28	「京のまち企業訪問ツアー」の実施(6回,67名,6社)	各企業が実施しているインターンシップの情報など、SNS等を活用した情報発信に取り組む。	京都市
	④ 学生のベンチャーマインド・ソーシャルビジネスマインドの育成	充実	Monozukuri Hub Meetup Cafe	次代の京都経済をリードするベンチャー企業の発掘・育成のため、起業・ものづくり・イノベーション等をテーマにKyoto Makers Garageで交流イベントを開催。	H29	Kyoto Makers Garageで交流イベントを開催した。 (5月31日:参加者数42名 12月4日:参加者数26名)	引き続き、年2~3回程度、交流イベントを開催する。	京都市

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体		
(1)	京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	④	学生のベンチャーマインド・ソーシャルビジネスマインドの育成	充実	ビジネス総合力養成講座『ビジネスデザインスクール』	京都地域における起業や新事業の創出を促進させ、地域産業や経済の活性化を図ることを目的に、主に京都市内の中小企業者を対象としたビジネス総合力養成講座を開催。	H22	全11日間の総合力養成講座を開催した。 【日程】 ・4月20日 オープン講座 ・5月18日～令和元年11月30日 総合力養成講座開催(全11日) ・12月14日 成果発表会 延べ参加者数:314名	引き続き、オープン講座や総合力養成講座等を開催する。	京都市
			京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター創出支援事業	継続	ビジネスを通して社会的課題の解決に取り組むソーシャルビジネス事業者の集積(ソーシャル・イノベーション・クラスター)を図るため、ソーシャルビジネスの認定制度の運用及び各種支援による社会的企業の育成・誘致を実施。	H27	・社会的課題を社会との相互作用によって解決する、持続可能な仕組みをデザインする科目「ソーシャルインタラクションデザイン」を京都工芸繊維大学大学院と協力して実施した ・各種大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義を行った。	引き続き、各大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義を実施する。	京都市	
		⑤	学生の就職活動の支援	継続	京都市わかもの就職支援センターを拠点とした個別カウンセリングや就職支援セミナー等の実施	「京都中小企業担い手確保・定着支援事業」の取組として、「京都市わかもの就職支援センター」を拠点に、個別カウンセリングや就職支援セミナー等の実施。	H28	個別カウンセリングの実施(人数:延べ1,388名) 大学への出張セミナーの実施(回数:66回,参加者:1,632名)	京都の中小企業への就職希望者に向けた個別カウンセリングの充実や、出張セミナー実施大学の拡充、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手育成に取り組む。	京都市
(2)	「働き方改革」の推進と学生を取り巻く就労環境の向上	①	働き方改革実践企業等の学生への周知	新規	京の企業働き方改革総実践プロジェクト	経済団体等と連携し、市内中小企業が働き方改革を積極的に実践していくための仕組みづくりを進めるとともに、モデルとなる企業の創出及びその事例の周知・啓発を行うことで、中小企業における働き方改革の主体的な取組を後押し。	H30	学生の意見も取り入れたうえで、京の企業「働き方改革」自己診断制度を創設し、働き方改革への取組状況等について、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用し発信した。	引き続き、ウェブサイト「京のまち企業訪問」において、働き方改革に取り組む地域企業の情報を発信する。	京都市
		②	学生を取り巻く就労環境の向上	充実	京都市わかもの就職支援センターによるブラックバイト根絶に向けた取組	ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。 【(再掲)1-(2)】	H28	「よくわかる働き方と法律セミナー」の開催(回数:4回,参加者:356名)	引き続き、「よくわかる働き方と法律セミナー」を市内大学等で開催するとともに、ブラックバイトの根絶に向けた相談、周知・啓発に取り組む。	京都市

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	① リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実	新規	リカレント教育の推進支援 実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで、リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	R1	教育事業企画検討委員会の下に「リカレント教育企画検討委員会」を設置し検討を開始した。	引き続き、各大学が実施するリカレント教育の支援策及び大学コンソーシアム京都が実施するリカレント教育等について検討する。	京都市 大学コンソーシアム京都
	② 京(みやこ)カレッジにおける教養講座の充実	充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。	H19	31大学2機関(前年度34大学2機関)から257科目(同274科目)を提供し、延べ1,570名(同1,422名)の出願があった。京都学講座を含む市民教養講座としてキャンパスプラザで開講した10科目(同8科目)の出願は904名(同735名)であった。大学リレー講座では10大学・10講座をリレー形式で行い、平均受200名超の受講となっている。	令和2年度「京カレッジ」京都力養成コースにおいて、新文化庁や京都のプロスポーツ(女子プロ野球)に関連した講座を開講する。	京都市 大学コンソーシアム京都
	③ 公開講座や大学施設の 情報発信	充実	「大学リレー講座」による各大学の生涯学習事業の情報発信 学生向けアプリ(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(仮称))の開発・活用	一般市民を対象とした生涯学習事業「京カレッジ」のひとつとして各大学の特色ある講座をリレー形式で実施する。あわせて講座実施校のキャンパスで実施する講座やイベント等を紹介し大学の魅力をPR。 学生向けアプリの活用により、市民等が利用可能な大学の施設に関する情報を広く発信。	H28 R2	「京カレッジ」において、各大学(10大学)の特色ある講座をリレー形式で実施した。 学生向けアプリを開発した。	引き続き、リレー形式の講座を実施する。 学生向けアプリを活用し、大学ミュージアム等について、幅広く発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都 京都市
(2) 産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	① 産学公の連携強化	充実	京都産学公連携機構	京都における産学公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら連携と協働を進めるための基盤として設立された「京都産学公連携機構」に参画。同機構が実施する産学公連携事業を支援。	H15	「産学公連携・京都モデル」の調査・発信やホームページ、メールマガジン(随時)による情報発信に取り組む。また、各大学と連携し、京都経済センターに取り組んだ。	引き続き、「産学公連携・京都モデル」の調査・発信やホームページ、メールマガジン(随時)による情報発信に取り組む。また、各大学と連携し、京都経済センターで産業支援機関や大学等の情報交換会、セミナーを実施する。	京都市
			京都「大学の知恵」活用認定制度	京都の大学の研究成果を活用した商品や取組を認定する共通ロゴマークを使用することにより、大学の社会貢献が見える化するとともに、大学の研究成果の社会還元を推進し、産学連携や地域連携を通じた地域経済の活性化及び活力ある地域づくりを推進。	H29	京都「大学の知恵」活用認定制度を推進した。(実績) H30年度4件、R1年度集計中	引き続き、京都「大学の知恵」活用認定制度を推進し、大学の知恵の見える化を図る。	京都市

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化 (2)	② 大学の技術シーズの事業化	継続	京都市成長産業創造センターでの取組の推進	大学・研究機関、企業等の産学公が連携し、最先端の大学の技術シーズを着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進して、「グリーン・イノベーション」(環境エネルギー分野革新)と「ライフ・イノベーション」(医療・介護分野革新)を実現し、付加価値の高い高機能性化学品を生み出すとともに、その成果を地元の中小企業に橋渡しすることにより、京都市域における産業競争力の確保と新規事業を創出。また、人材育成や産学公の交流の場を提供し、幅広い情報交流の促進と新たな連携を創出。	H25	大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進したほか、アステム30周年記念シンポジウム等を開催した。	引き続き、大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクト等を推進する。	京都市
	③ 大学との共同研究の推進による新事業創出支援	継続	京都市ライフイノベーション創出支援センター	大学及び中小・ベンチャー企業等の技術シーズ、医療機関等のニーズの発掘に常時取り組むとともに、有望な研究テーマについては大学・企業等との連携の下、事業化に向けて、産学連携のコロネーター活動を行うほか、国等の研究開発プロジェクト等に位置付けられるよう伴走支援を実施。また、大学発のシーズの事業化を進めるため、大学発ベンチャーの設立支援等も含め、発掘から事業化が見込める段階までの伴走支援を実施。	H22	革新的な医療技術に関する研究開発に対して助成(採択件数:18件)を行ったほか、ライフサイエンス分野における大学発ベンチャーの起業促進に向けて、ビジネスモデル構築等を実践的に支援する「KYOTO発起業家育成プログラム」(採択件数:3件)等を実施した。	引き続き、「京都発革新的医療技術研究開発助成事業」や「KYOTO発起業家育成プログラム」に取り組む。	京都市
		継続	地域産学官共同研究拠点事業	平成21年12月に(独)科学技術振興機構(JST)の採択を受けた地域産学官共同研究拠点整備事業により、高度研究機器の配備を受け、先端光加工プロジェクト及びバイオ計測プロジェクトを推進。機器を活用し、共同研究の推進と中小企業への技術移転、高度技術者の育成等を促進。	H23	高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトを推進したほか、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成(人材育成セミナー等の実施)等に取り組んだ。	引き続き、高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトを推進や、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成に取り組む。	京都市
		継続	次世代産業×大学発ベンチャー 社会課題解決のための技術開発プロジェクト	社会課題の解決につながる研究を行う研究者に対し、研究開発への助成、実証実験のフィールドの提供、技術開発へのフィードバック等の支援を行い、製品・サービス等の開発を促進。さらに、こうした研究開発の成果を金融機関、ベンチャーキャピタル等の投資家に対して発表する場を提供し、大学発ベンチャーの起業を後押しし、次世代産業の振興を促進。	R2	—	行政課題(例:農林業の担い手不足解消につながるスマート技術の実装など)を選定したうえで、課題解決のための研究開発を公募し、選定された研究者へ支援(助成金や実証実験フィールドの提供等)を行う。	京都市

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(2) 産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	④ コンテンツ産業の振興と担い手育成	充実	MANGAナショナルセンター(仮称)誘致推進事業	日本初のマンガ文化の総合拠点であり、MANGAナショナル・センター(仮称)のハブ(軸)機能としての位置付けを目指す京都国際マンガミュージアムの機能充実を図るとともに、作品コンテストや企業等とのマッチングを通じ、コンテンツ産業を支える優秀なクリエイターの育成に推進。	H30	・京都アニメ・ゲーム企業キャリアフォーラムの開催(9月22日) ・京都国際マンガミュージアムPR事業	・京都アニメ・ゲーム企業キャリアフォーラムの開催 ・京都国際マンガミュージアムPR事業	京都市
(3) 大学をいかした文化芸術環境の向上	① 新・文化庁との連携強化	新規	新・文化庁との連携	文化庁地域文化創生本部と締結した連携協定に基づき、新文化庁との連携を強化。	H30	文化庁地域文化創生本部と大学コンソーシアム京都間で締結した連携協定に基づき、文化庁地域文化創生本部を新たなパートナーシップ事業の受入先とした。	引き続き、連携強化策について検討する。	大学コンソーシアム京都
	② 大学の知をいかした文化力の向上	充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。 【(再掲)5-(1)】	H19	31大学2機関(前年度34大学2機関)から257科目(同274科目)を提供し、延べ1,570名(同1,422名)の出願があった。京都学講座を含む市民教養講座としてキャンパスプラザで開講した10科目(同8科目)の出願は904名(同735名)であった。大学リレー講座では10大学-10講座をリレー形式で行い、平均受200名超の受講となっている。	継続して実施する。市民教養講座として9科目をキャンパスプラザで開講する。大学リレー講座では11大学-11講座を実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都
	③ 芸術系大学の集積をいかした文化芸術の振興	継続	Art-e Kyoto	芸術系5大学(京都市立芸術大学、嵯峨美術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、成安造形大学)と京都市立小・中学校が、それぞれの教育資源を生かし、美術教育の充実や、芸術を大切にする風土づくりを目指して連携。	H24	大学・小中学校の連携事業として、フォーラム等を開催した。	引き続き、大学・小中学校の連携事業として、フォーラムの開催や共同研究等を行う。	京都市
			駅ナカアートプロジェクト	京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示。	H23	令和2年3月下旬から、地下鉄駅11駅にて作品展示を行うとともに、学生がデザインした市バスアート車両を走行させた。	本事業が10周年を迎えるにあたり、例年の内容に加え、地下鉄車両への装飾やラッピングを実施するなど、充実をはかる。	京都市
④ 京都市立芸術大学新キャンパスを核とした文化芸術創造拠点の整備	新規	芸術大学移転整備事業	京都市立芸術大学が世界を視野に更なる飛躍を果たすとともに、文化芸術都市・京都の発展に大きく貢献することを目指して、「京都市立芸術大学移転整備基本計画」(平成29年3月策定)に基づき、平成29年度から設計に着手しており、令和5年度の供用開始を目指して、引き続き、移転整備事業を推進。	H29	設計完了	新キャンパスの建設工事に着手する。	京都市	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(3) 大学をいかした文化芸術環境の向上	⑤ 「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生	新規	東山アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)	若手芸術家を対象に、既存の町家や倉庫、公的住宅、小学校跡地施設や公共空間等を利用して、若手芸術家が京都のまちなかに居住し、活動しつづけることができる環境を整え、新しい創作の活力をまちの活力へ促進。	H20	<ul style="list-style-type: none"> ・若手芸術家を対象とした、居住、制作、発表の場に関する総合サポート窓口相談件数:166件(令和元年12月末時点) ・若手芸術家等に空き家を紹介し、居住・制作の場を提供:2件(令和元年12月末時点) ・旧新道小学校を制作スタジオとして活用(全6教室,4月～) ・キュレーター招聘の実施:2名(令和元年12月末時点) ・芸術家×仕事コーディネート事業のコーディネート成立件数:7件(令和元年12月末時点) 	これまでの取組と成果を検証し、今後の事業展開について内容の検討と見直しを行いながら、地域へのアプローチと国際的に活躍する若手芸術家等の育成・支援を実施する。	京都市
			京都駅東部エリアの活性化	京都市立芸術大学等が移転される京都駅東部エリアにおいて、芸術大学や、下京渉成小学校区の5学区によるエリアマネジメントなど、地域や関係するまちづくり団体等とも連携し、文化芸術を基軸としたまちづくりを進め、地域活性化の機運を高めるとともに、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・京都駅東南部エリアにおける文化芸術イベント「東九条野外劇場」との連携イベント開催(11月) ・「京都駅東部エリア 高瀬川沿いを歩く」開催(12月,2月) ・京都駅東部エリア「高瀬川オープンカルチャーフォーラム2020」開催(1月) ・京都駅東部エリア「京都七条通めぐりスタンプラリー&アートフェスタ」開催(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア内の地域資源活用事業本エリアでの地域や民間の自主活動の更なる活発化を図るため、勉強会や意見交換を通じた緩やかなネットワークづくりを行う。 また、芸術系大学の学生をはじめ、若手芸術家やクリエイターなど、京都の文化芸術・伝統産業の多様な担い手が、地域行事などのまちづくり活動に参画し、展示・発表の場として地域資源を活用するなど、地域とのつながりを持つ中で、活動し、活躍できるよう、ソフト面での支援を行う。 ・京都駅周辺エリアと連動した活性化事業 京都駅周辺エリア(京都駅東南部及び西部)とも連動した取組を実施することで、人の流れをより広域的に生み出し、京都駅東部エリアの活性化を推進する。 	京都市
(4) 大学と地域との連携の推進	① 大学と地域の連携強化	充実	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学等の組織的な取組として定着させ、更に充実・発展させることを目的に、京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	H28	平成28年度に採択した6大学の取組に対して、支援を行うとともに、各大学の取組成果を「大学×地域連携サミット」において報告した。	地域連携に係る新たな取組を進める大学を公募のうえ選定し後押しする(令和2年度から最大4箇年の支援を想定)ことで、地域連携に全学的に取り組む大学の裾野の拡大を図る。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(4) 大学と地域との連携の推進	① 大学と地域の連携強化	充実	京都市の部局や区役所と大学との協定締結による連携事業の推進	京都市と大学の連携事業を推進。	-	大学と連携した取組の推進に努めた。 (協定数: 260件 (H31.3現在))	引き続き、大学と連携した取組の推進に努める。	京都市
			大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。 【(再掲)3-2】	H16	・14事業(文化枠2件、一般枠12件)を支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。 ・新たに採択団体向けにアンケートを実施し、地域団体とのつながりを希望する団体に対して、区役所等と協力し支援を行った。	・引き続き、地域連携事業について支援を行う。 ・各大学における広報の充実や、応募者説明会の開催回数を増やすことにより、応募団体の拡充に努める。	京都市 大学コンソーシアム京都
	② 大学と地域の連携事例の発信	充実	大学・地域連携サミット	大学コンソーシアム京都加盟大学における地域連携の事例や、学まちコラボ事業等における大学・地域連携の事例を広く発信するとともに、地域連携活動に関わる学生、大学教職員、地域団体等が交流する機会として開催。	H28	令和元年12月に4回目となる「大学×地域連携サミット」を開催し、「学まち連携大学」促進事業に取り組む6大学の成果報告や、ポスターセッション形式による学生団体の活動発表を行った。	令和2年度は新たに大学を採択年度のため、次回の大学・地域連携サミットは、令和3年度に開催予定であるが、引き続き、大学地域連携ポータルサイトにおいて、大学・学生と地域の連携事例を発信する。	大学コンソーシアム京都
			大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。 【(再掲)3-2】	R1	平成31年4月に、大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」を開設し、地域連携活動に取り組む学生の裾野の拡大を図った。	大学の取組やスペシャルコンテンツなど、様々な情報の配信を行い、地域連携の活動に取り組む学生の機運の醸成に努める。	大学コンソーシアム京都
③ 学生の力をいかした住民自治の活性化	新規	大学生の力を活用した田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び京都市が連携協定を締結し、事業を推進。	R1	学生が3名入居し、自治会役員として、地域の地蔵盆やお祭りの運営など自治会活動に携わっている。	学生の入居者数を、6名まで拡大し、さらなる地域コミュニティの活性化を図る。	京都市	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(5) 小中高大連携の推進	① 教職員交流企画の実施	新規	高大連携教育フォーラム	高大連携・接続に関する国内動向の情報共有と京都地域における取組の情報発信を目的として、京都府内外の高校教職員、大学教職員等を対象とした高大連携教育フォーラムを実施。	H15	第17回高大連携教育フォーラムを開催した。(12月7日開催:参加者数:223名)	引き続き高大連携教育フォーラムを開催する。なお、実施にあたっては、文部科学省が設置した「大学入試のあり方に関する検討会議」や高大接続改革における様々な取組状況を踏まえつつ企画の検討を行う。	大学コンソーシアム京都
			教職員交流企画の実施	「高大接続改革」の推進が求められている中、各校が抱える課題の解決や教育改善に資するため、学校や設置者の別を越えて、教育上の工夫や悩みなどを共有し、解決に向けて交流する場として「京都高校教員交流会」を実施。	H30	京都高校教員交流会を計3回開催した。	引き続き、京都高校教員交流会を開催する。なお、実施にあたっては、高校現場や高校教員のニーズを踏まえるとともに、安定的な実施と参加者確保のために高校関係者と連携を密にし企画の検討を行う。	大学コンソーシアム京都
	② 高大社連携キャリア教育企画の充実	充実	高大社連携キャリア教育企画	高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。【(再掲)3-3】	H30	◆高大社連携フューチャーセッション ・京都市内会場(9/22)【参加者数:高校生15名,大学生11名】 ・京都府北部会場(9/29)《参考》【参加者数:高校生23名,大学生31名】 ・振り返り会(12/7)【参加者数:高校生4名,大学生12名】	継続実施する。実施にあたっては、より多様な高校や大学からの参加者増のために、各校の行事等の情報収集を踏めて、広報期間や実施時期等に配慮する。	大学コンソーシアム京都
③ 学校・幼稚園における学生の活躍の場の創出		継続	「学生ボランティア」学校サポート事業	「大学のまち・京都」の特性を活かし、大学との連携のもと、教職を目指す学生を中心としたボランティアを学校・幼稚園に派遣し、各教科やクラブ活動の指導補助などの様々な支援を実施。一人一人の子どもに対するきめ細かな指導が充実し学校教育活動が一層活性化するとともに、教職を目指す学生の意欲・資質を高めることにより、将来の学校教育を担う教員の確保と養成に貢献。	H15	教員を目指す学生ボランティアを学校等に派遣し、授業やクラブ活動の指導補助等を経験させた。(学生ボランティア協定締結大学等数:131校)	引き続き、「学生ボランティア」学校サポート事業を実施する。	京都市

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(5) 小中高大連携の推進	④ 産学公連携による教育システムの研究と発信	継続	京都教育懇話会	新たな次世代教育モデルの創造・構築に関する研究を深め、先進的な取組を京都から全国に発信するため、産学公で構成された京都教育懇話会の活動を推進。	H20	年4～5回の京都教育懇話会(勉強会)や「京都21世紀教育創造フォーラム」を開催した。	引き続き、京都教育懇話会(勉強会)等を開催する。	京都市
			京都こどもモノづくり事業	産学公連携のもと、「ものづくり都市・京都」の特性を生かし、子どもたちがモノづくりに関して学んだり、体験したりする機会を創出・提供。	H21	○京都モノづくりの殿堂・工房学習…市立小学校160校と総合支援学校5校、計165校9,953名参加予定。 ○殿堂の一般公開…延べ1,695名が来館。 ○京少年少女モノづくり倶楽部…登録会員数3,923件及び講座数171団体544件。 ○第14回「至高の動くおもちゃづくり」トイ・コンテストグランプリ…小学校3～6年生441名が参加予定。	○京都モノづくりの殿堂・工房学習…市立小学校156校と総合支援学校4校、計160校約10,000名参加予定。 ○殿堂の一般公開…延べ約2,000名が来館。 ○京少年少女モノづくり倶楽部…更なる登録会員数及び講座数の拡充。 ○第15回「至高の動くおもちゃづくり」トイ・コンテスト グランプリ…小学校3～6年生約500名が参加予定。	京都市
	⑤ 京都学生広報部への高校生の参画の促進	新規	京都学生広報部	中高生と直接交流するイベントを開催するとともに、京都B&Sプログラムへ京都学生広報部の学生が参加し、修学旅行生に対して、ウェブサイト「コトカレ」等のPRを実施。	H27	京都学生広報部による京都B&Sプログラムへの参加や青少年活動センターと協働した企画の実施により、直接中高生と交流する機会を創出した。	引き続き、京都B&Sプログラム等との協力のもと、京都学生広報部と中高生が直接交流する機会を創出する。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体
(1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中高校生・保護者等への魅力発信	① 修学旅行生とその保護者等を対象としたPR	新規	街全体がキャンパス 学びの都 京都B&Sプログラム	全国から修学旅行で京都を訪れる中高生に現役大学生が観光地や大学キャンパスと一緒に街歩きし、京都の街・大学の魅力を伝達。	H26	2019年度は、19校(中学校16校, 高校3校), 2501名の生徒とともに京都の街歩きを行った。約800名の大学生ボランティアが登録し、延べ381名の学生がプログラムに参加した。 ※12月現在	京都学生広報部とも連携し、引き続き、学生ボランティアの確保に取り組むとともに、京都の大学への関心を高め、京都の大学に進学する学生の獲得につなげる。	京都市 大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	京都B&Sプログラムや、よしもと祇園花月協力のもと、修学旅行生を対象にした公演(よるよる新喜劇)において、中高生に対して直接京都の学生生活の魅力を発信した。	引き続き、京都B&Sプログラムやよるよる新喜劇において、修学旅行生に対する京都の学生生活の魅力を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都
			きょうと修学旅行ナビの運営	テーマ別モデルコースの紹介や、修学旅行関連資料の提供など、京都への修学旅行をサポートするウェブサイト運営。	H19	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営した。	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営する。	京都市
	② 学生による京都で学ぶ魅力の発信	充実	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	・SNS(Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画や修学旅行生を対象にした公演(よるよる新喜劇)でのPRの実施、青少年活動センターと協働した中高生と交流イベントを企画した。	・主に中小規模大学と連携し、学生目線で大学の魅力を発信するとともに、京都学生広報部・各大学双方におけるPRを充実する。 ・引き続き、多様な主体と協働することで、京都の学生生活の魅力発信を充実させる。	京都市 大学コンソーシアム京都
	③ 現役学生の保護者や卒業生、観光客等、幅広い層を対象とした情報発信	充実	京都版スタディ・ツーリズム	京カレッジや各大学の公開講座等の情報を、東京における拠点を活用して幅広く発信することにより、京都で学ぶことを目的とした来訪を促進。	R1	京カレッジの情報等について、大学コンソーシアム京都のウェブサイトで発信することに加え、京都館のれん分け事業者の店舗等、東京における拠点で発信を行った。	引き続き、東京における拠点を活用した情報発信を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和元年度進捗状況	令和2年度以降の取組	実施主体		
(2)	留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	①	留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。 【(再掲)2-(1)】	R1	・東京での京都進学説明会(10校で計425名)、留学生の京都学び体験ツアー(文系・理系・芸術系コースで計38名)、首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアー(11校で計11名)を実施した。 ・初の試みであったが一定の京都進学ニーズを確認できた。この活動を通して関係づくりができた日本語学校から京都の大学の受験数も増加しており、事業効果が感じられる。	前年度の課題を踏まえながら、首都圏における新規対象校を開拓し、引き続き、京都進学説明会、教職員との交流機会の創出、留学生の京都訪問を実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都	
				留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。 【(再掲)2-(1)】	H27	・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域、9名)	・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・パティ・翻訳等の取組を実施	京都市 大学コンソーシアム京都	
(3)	大学・市民向け広報の充実	①	市民向け広報の充実	地域連携ウェブサイトの運営	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。 (再掲)3-(2)	R1	平成31年4月に、大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」を開設し、地域連携活動に取り組む学生の裾野の拡大を図った。	大学の取組やスペシャルコンテンツなど、様々な情報の配信を行い、地域連携の活動に取り組む学生の機運の醸成に努める。	京都市 大学コンソーシアム京都	
			②	「大学のまち」「学生のまち」の更なるPR	シンボルマークの策定	「大学のまち」「学生のまち」の認知度向上に向け、シンボルマークを策定し、京都の魅力発信。	-	-	実施に向け検討を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
			③	大学・学生向け広報の充実	学生向けアプリ(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ(令和元年度末開発予定)を活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。 (再掲)1-(2)	R1	令和元年度末からのアプリの運用に向け、学生プロジェクトチーム等を立ち上げ、学生の意見を反映したアプリを開発する。	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、PRに引き続き取り組むとともに、情報配信やコンテンツの充実を図る。	京都市	